

# 地域コミュニティのあり方 基本方針（素案）

概要版（中間）

写真

## これからの地域コミュニティを考える 背景と目的

### （１）社会の変化に対応できる地域づくり

邑南町では、まちづくりの主体は町民であるという基本理念のもと、「自分たちの地域は自分たちで創りあげる」という思いを持ち、集落、自治会などのコミュニティを中心に安全安心な暮らしを作ってきました。

少子高齢化に伴う人口減少と社会の変化により、これまでの仕組みを維持することが困難になりつつあります。将来にわたって暮らしやすい地域をつくるための仕組みを改めて考える必要があります。

### （２）地域コミュニティ見直しの必要性

町内の人口を2007年度と2022年度で比較すると、地区レベルで13～39%減少しています。また、町内の団地を除く205集落のうち、25～59歳人口が10人未満の集落が95あり、高齢・小規模化した集落では、伝統行事はもとより、地域の見守り機能など基本的なコミュニティ機能が低下する恐れがあります。

愛着ある地域で安全安心に暮らし続けられる仕組みを考える必要があります。

### （３）地域コミュニティの現状と課題

本町の地域コミュニティは、「地区(公民館区)」、「自治会」、「集落」の3階層で、自治会が地域代表的な組織と認識されています。

地域福祉、社会教育といった地域課題の解決を目的とした組織は概ね地区レベルで組織されていますが、自治会役員があて職として参画することが多く、自治会役員の負担は大きくなります。

また、地域の意思決定は主に世帯主が参加する会などによることが多く、女性、若者、子どもの意見が反映されにくい傾向にあります。

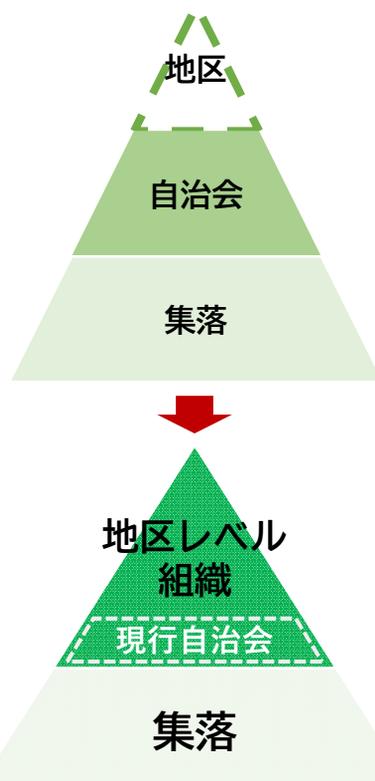
## 邑南町が目指すコミュニティ像

人口が減少しても安全安心な暮らしを維持していくために、地域がより連携したスマートな仕組みを構築していく必要があります。

そのうえで、誰もが地域づくりに参加できるプロセスを作り、当事者意識を高めていくことが持続可能性を高めるうえで重要になります。



地区	2022.4.30 人口	2007→2022 人口減率
矢上	2054人	-13.2%
田所	1658人	-13.2%
中野	1211人	-15.6%
高原	801人	-24.1%
出羽	738人	-19.2%
口羽	627人	-30.9%
阿須那	619人	-39.2%
井原	605人	-25.4%
日貫	426人	-33.0%
市木	383人	-25.5%
日和	368人	-26.5%
布施	164人	-35.9%

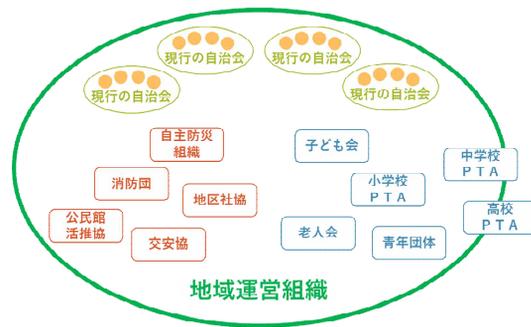


# 持続可能な地域の仕組み

## (1) 地域住民が主体となった地域運営の仕組み

これまで自治会と地区レベルの目的型組織が連携して地域課題解決に取り組んできました。多様化・複雑化する地域課題に対応するためには多様な主体の連携が必要となります。

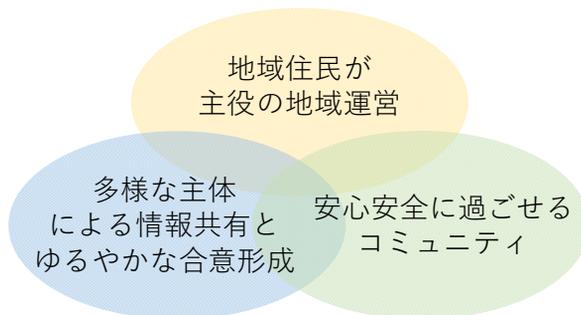
概ね地区を単位を単位とした「地域運営組織」による総合的な地域運営が効果的と考えられます。



## (2) 住民に情報が伝わり、住民参加によって合意形成できる仕組み

働き方の多様化や社会の変化により、地域での暮らしに求められることも大きく変わりました。

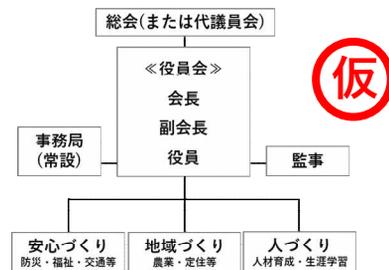
地域活動への参加を有意義にするために、情報発信手段や誰もが参加しやすい仕組みをつくる必要があります。



## (3) 地域の課題解決に取り組むやすい仕組み

多様な地域課題の解決や地域づくりを行うため、企画立案し、地域の合意を得て実行するために協議機能と実行機能を持つ必要があります。

地域の実情に応じて、右図のようなイメージの体制が想定されます。



## 現行の自治会はどうなる？

これまでの自治会の取り組みは概ね地域運営組織が担うことができますが、自治会を範囲とした伝統行事や取り組みは、地域でどうするかを検討していく必要があります。

また、地域の集会施設をどうしていくかも地域内で検討していく必要があります。

## 地域運営組織と集落の関係

これまでと同様に地域コミュニティの基本単位は集落となることが考えられます。しかし、人口減少と高齢化によりコミュニティの機能が失われつつある集落は、地域運営組織がその機能を補完していくことが求められます。

## (4) 地域の活動拠点

第5回検討委員会で議論

# 地域運営組織の重点機能

定住や産業振興などの「地域づくり」、地域の福祉や防災などの「安心づくり」、次世代育成などの「人づくり」を地域運営組織の重点機能の基本として位置付けます。地域の実情や意向によって、地域運営組織が取り組みを検討していきます。

## 安心づくり

高齢者・子どもの見守り、子育て支援、防災活動など安心して暮らせる地域を作るための取組を推進します。

写真

≪具体的な取組例≫

- ・高齢者、子どもの見守り活動
- ・運動教室など健康づくり
- ・交流サロン等の設置・運営
- ・子どもの居場所づくり
- ・移動販売や配食サービス
- ・環境美化活動や啓発
- ・除雪活動支援
- ・防災訓練や災害時の避難所運営など

守り

## 地域づくり

長期的な視点での地域づくりに向けて、地域課題の把握や地域資源の掘り起こし・活用など地域振興への取組を推進します。

写真

- ・空き家の把握
- ・移住者の受け入れ、アフターフォロー
- ・地域資源の掘り起こし・活用
- ・地域産業の振興
- ・農地・林地の保全
- ・環境美化活動や啓発など

攻め

## 人づくり

共に地域をつくり、地域の魅力を次代へつなぐ担い手を育成するための人づくりを推進します。

写真

≪具体的な取組例≫

- ・子ども活動の支援
- ・生涯学習活動
- ・次世代（担い手・子ども）の育成
- ・伝統文化の継承
- ・地域内広報活動など

基盤

## 関係人口との協働

近隣市町村に住んでいる町内出身者や、邑南町に関心を持ち、イベントなどで町とのつながりを深めている関係人口と協働して、地域づくりに取り組めるよう、情報共有や関係づくりに取り組んでいくことも持続可能な地域コミュニティを作るうえで重要になります。

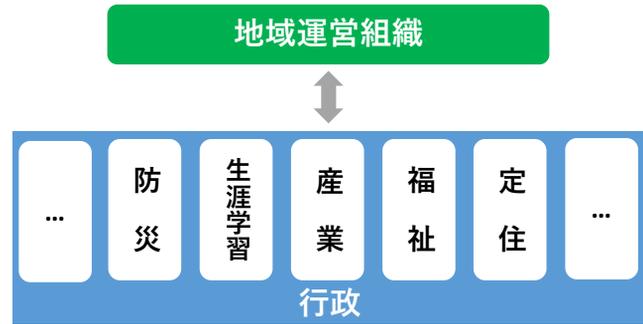
## 町の支援

### (1) 推進体制の整備

これまで自治会と行政が業務協定を結び、協働のまちづくり推進に取り組んできました。

地域運営組織と行政は引き続き連携、協働した地域活動の推進にあたります。

また、行政の縦割りによる地域への負担が減るように、行政の横連携を強化していきます。



### (2) 人的支援、財政的支援について

第4回以降で議論

- ・組織への伴走型支援

### (3) 行政の地域への向き合い方

第4回以降で議論

## 地域コミュニティ再編の実行計画

・地域の話し合いや当事者意識を高めるための取り組みを推進していく必要がある。

## 持続可能な地域の目指す姿

将来的な展望について記載予定。第6回検討委員会までで議論予定。